



学校だより 5月号

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/rvokuenhigashi/>

泉区緑園五丁目28番

TEL (811) 6710

「いっしょに読もう いっぱい読もう」

～「こども読書週間」に寄せて～

学校長 副島江理子

新年度が始まって一か月。新校舎に引っ越したことで、教職員も子どもたちも全員がまるで「転校生」になったような気分で、「どきどき、わくわく」と緊張と高揚感が混ざった学校生活を過ごしています。一人ひとりが新しい校舎に慣れようと集中し、6年生を中心に「新しい学校生活、最後の一年間」をよりよいものにしようと一生懸命に取り組んでいます。そんな子どもたちの姿に元気をもらう毎日です。

さて、毎年学校だより5月号の巻頭言は、「こどもの読書週間」（4月27日から5月10日まで）に因んだ話題を載せております。今年度の「こどもの読書週間」のテーマは「いっしょに読もう いっぱい読もう」です。本校でも放送朝会で、学校司書が、テーマやおすすめの本をいくつか紹介しました。私は、毎年発表されるテーマを楽しみにしています。読書のすばらしさがよく表れているからです。

そのなかでも「たいせつな一冊、一生のともだち」（2003年）「一人じゃないよ 本にも友だちいっぱい」（1998年）「友だち100冊つくるんだ」（2011年）を紹介します。（他のテーマもすばらしいので、ぜひ検索してみてください。）この3つのテーマに共通しているのは、「本は自分の大切な親友」ということです。つらいときや悩んだときに友だちの存在は大きくありがたいものです。一人でいるよりも友だちと一緒にいるときの方がより楽しく、いろいろな経験をしたりアイデアを出し合ったりすることができます。同じように、私たちは、本によって救われたり、勇気をもらったり、いろいろな知恵を授けてもらったりします。本の世界に没頭することで、言葉の力が付き想像力も育まれていきます。

私は、そのことを子どもたちに実感してもらいたくて、学級担任時代からずっと読書活動に取り組んできました。そして、その経験から「自分が選んだ本を最後まで読み通すことができる力」を一人ひとりが身に付けることが大切だと痛感して、緑園東小学校でも学校図書館教育に力を入れてきました。

世の中では、昨年度からのコロナ禍において、読書量が増えたという話を聞きました。これは、出かけることができないからという理由だけではなくて、先行き不透明な世の中で、本の世界に新しい出会いや知恵を求めているからではないかと思います。

本校では、学校図書館が子どもたちの学習の中心となって根付いており、自分の課題解決に必要な多様な情報を学校図書館にあるさまざまな資料から収集しています。この過程でも、本（資料）は自分の困りごとを共に解決してくれる最良の友だちと言えます。新校舎の仮図書館では、早速、豊かな読書活動や問題解決学習が繰り広げられ、いつも子どもたちで賑わっています。さらに、学習過程のいろいろな場面でタブレットも多様に活用するようになり、本とタブレットを併用して学習に取り組んでいます。

進級して最初の月、4月が終わります。子どもたちは元気いっぱいですが、疲れもたまっていることでしょう。明日からの連休では、子どもたちには、ほっと一息ついて、このひと月の疲れをとってほしいと思っています。そして、一人ひとりが思い思いに本を手にとって、好きな時代、好きな場所に大好きな友だちを見つけにいてほしいと思います。